

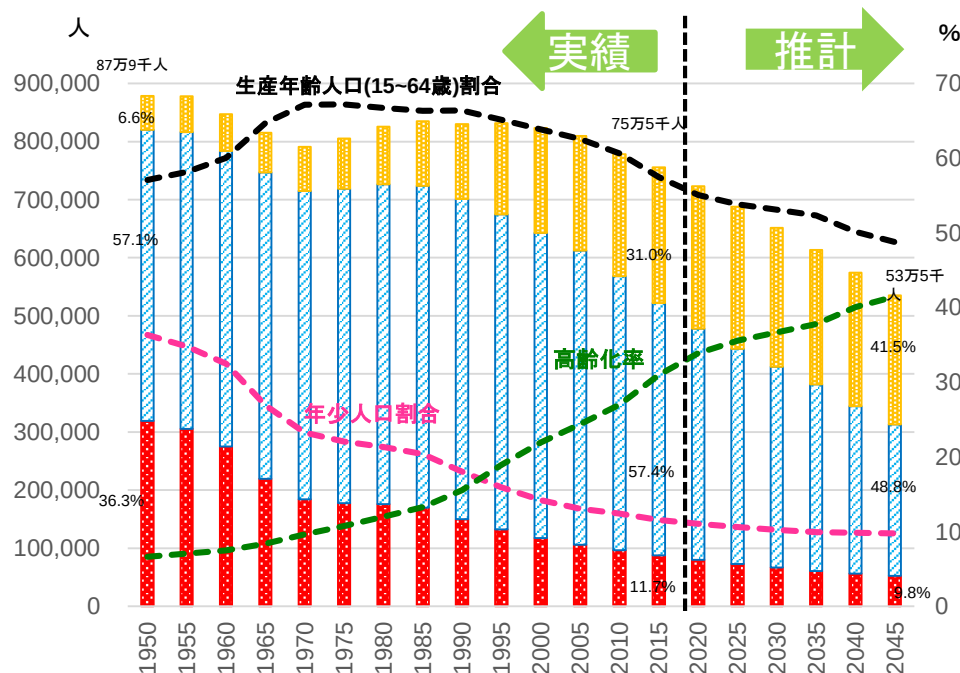
徳島県の少子化の現状等について

1 将来の人口見通し

人口構造の推移と見通し

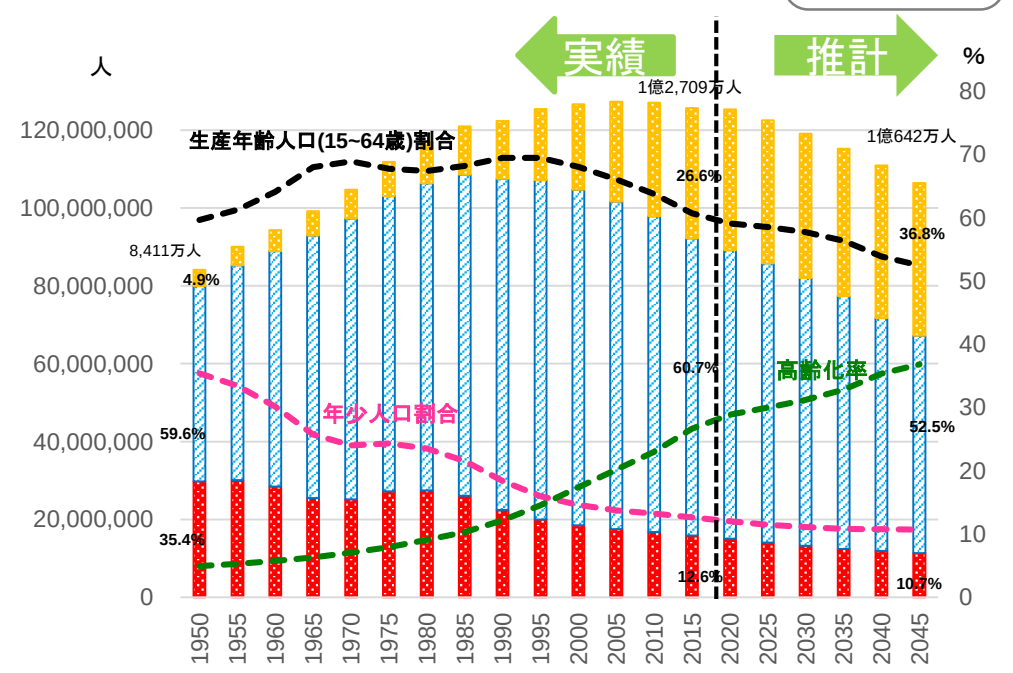
- 本県の総人口は今後も減少を続け、2045年には、53万5千人となる見通し。
- 本県の人口構造は大きく変化し、年少人口(0～14歳)の総人口に占める割合は、1950年の36.3%から2045年には9.8%、同じく生産年齢人口(15～64歳)は57.1%から48.8%まで低下する。
- また、高齢者人口(65歳以上)は2020年頃にピークを迎えた後減少に転じるが、総人口に占める割合は上昇を続け、2045年は41.5%となる。

徳島県における人口推移と人口推計



出典:総務省「国勢調査」

全国における人口推移と人口推計

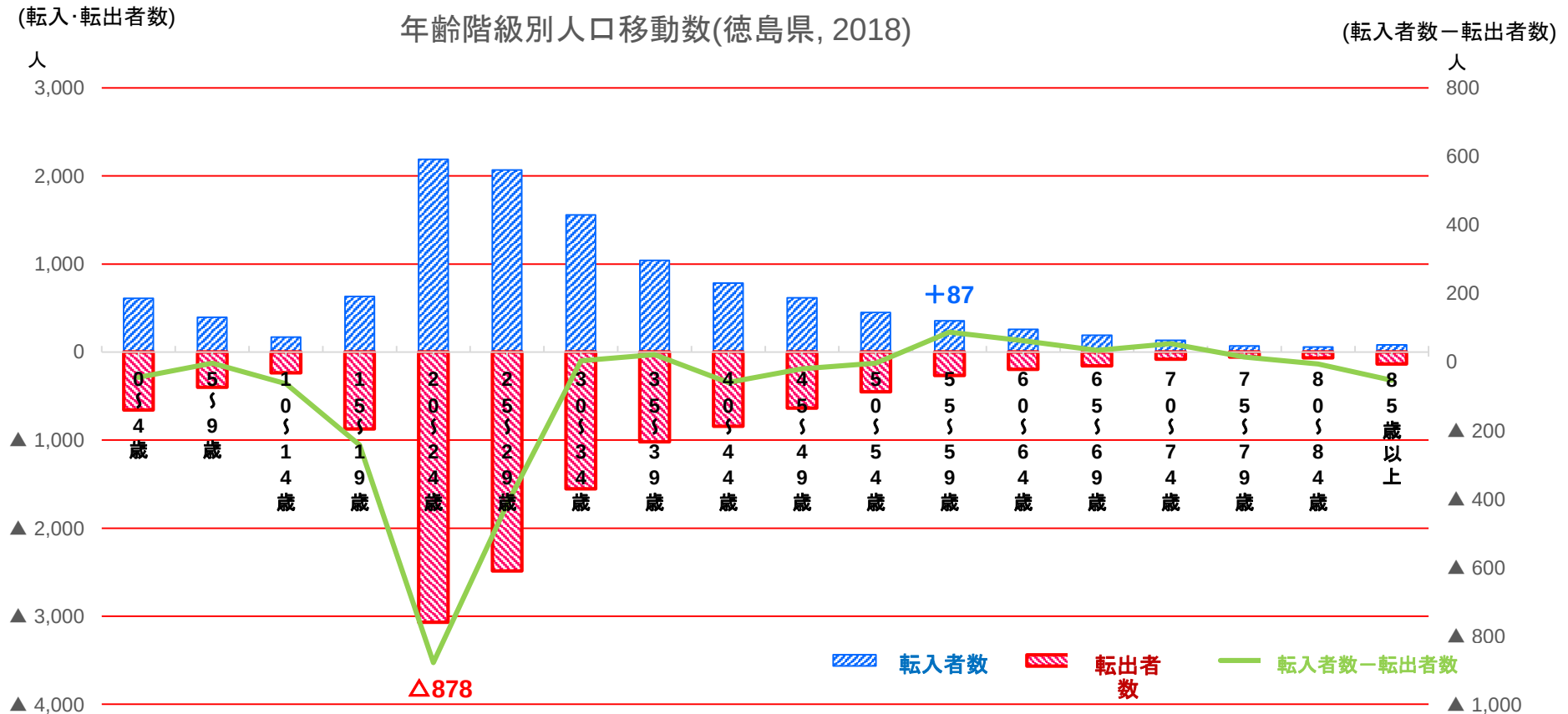


出典:国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来地域別推計人口」「日本の将来推計人口」

2 人口流出の現状

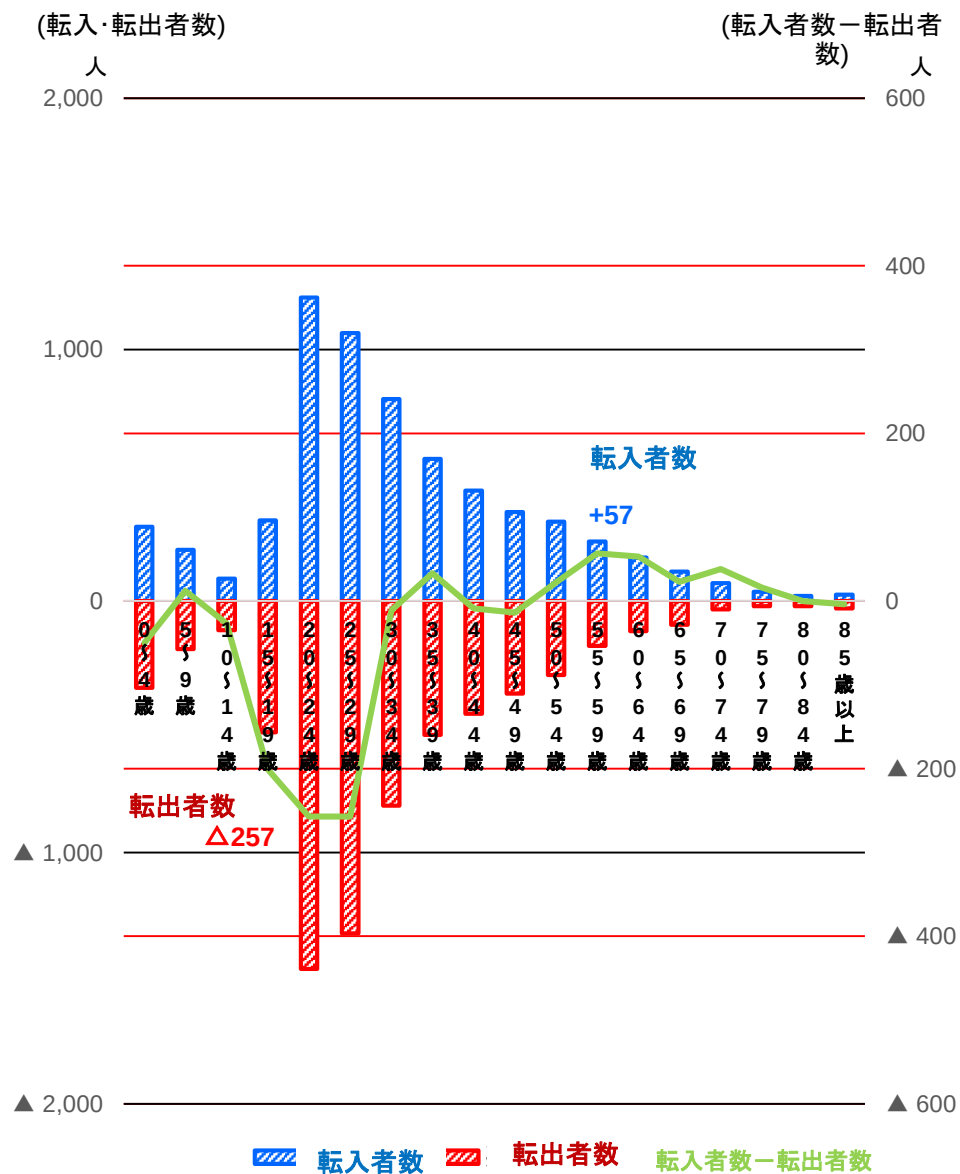
年齢階級別人口移動

- 2018年の人口流入数(転入者数－転出者数)は、20歳～24歳で▲878人と最も多く、全体の人口流入数(▲1,519人)の、大半がこの20歳～24歳の間に集中している。
- 2018年の20～24歳の女性の人口流出数(▲621人)と男性の人口流出数(▲257人)を比較すると、これから出産適齢期をむかえる年代の女性人口は男性の約2.4倍流出している。

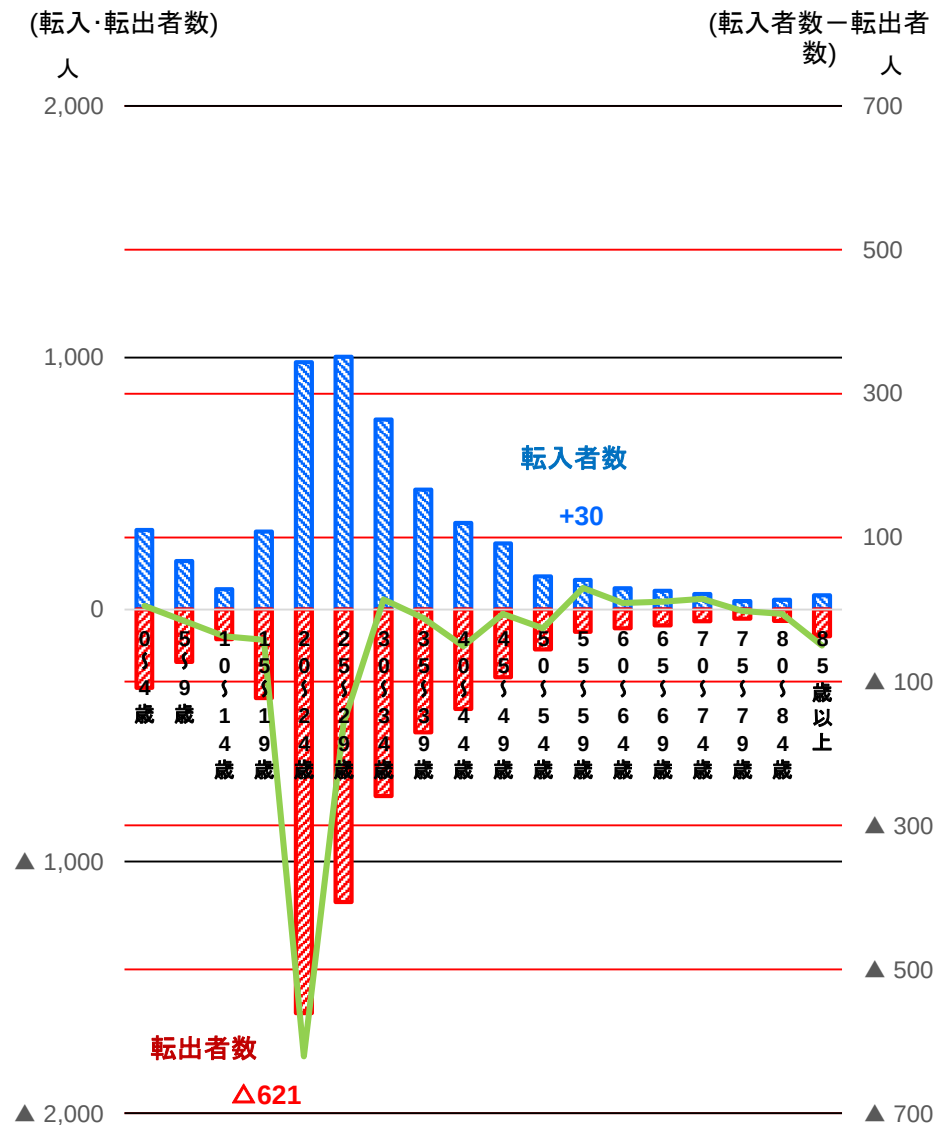


出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」 徳島県統計データ課「人口移動調査」

年齢階級別人口移動数(徳島県男性, 2018)



年齢階級別人口移動数(徳島県女性, 2018)



出典:総務省「住民基本台帳人口移動報告」 徳島県統計データ課「人口移動調査」

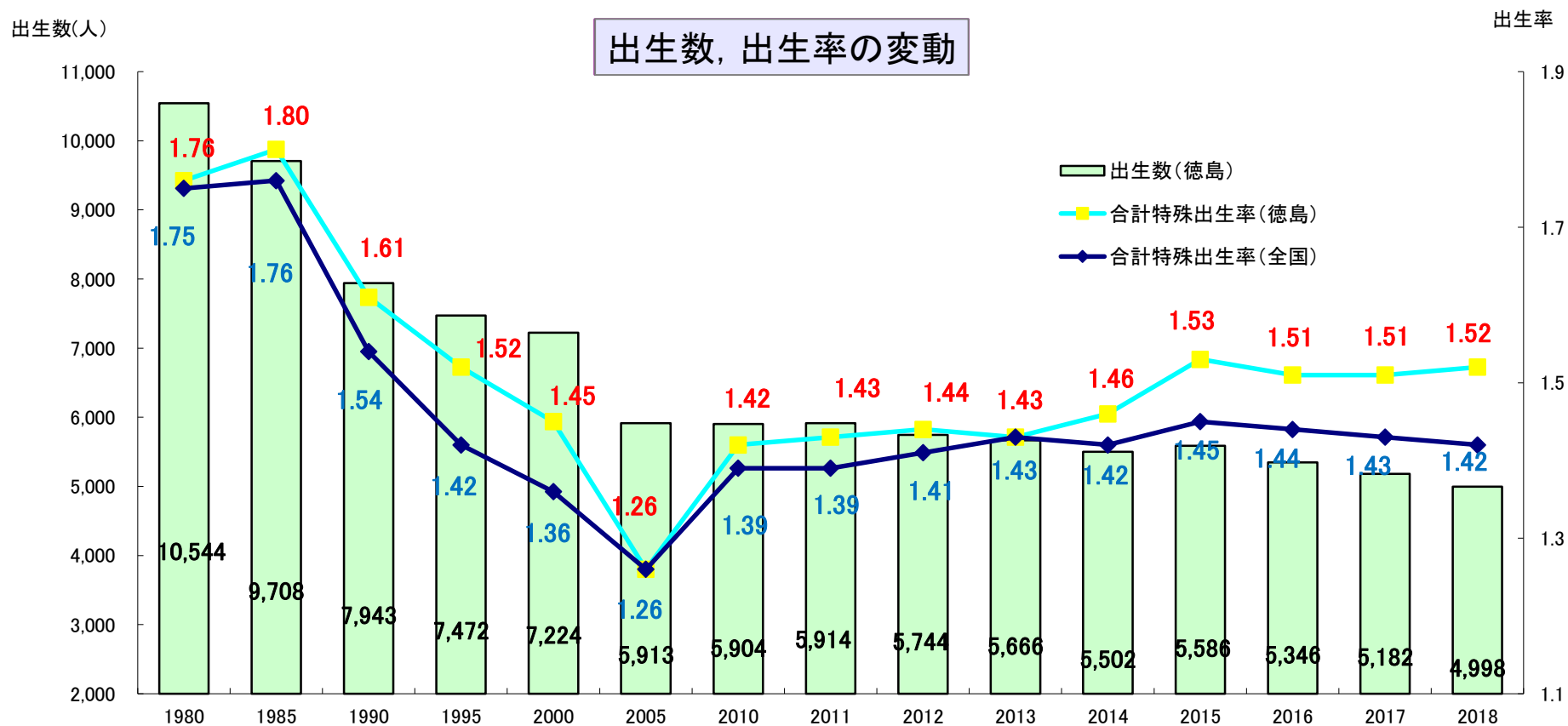
3 少子化の現状

依然として進行する少子化

● 2018年の本県の出生数(4,998人)は、前年と比較して184人減少している。

● 合計特殊出生率(概数)は、前年より0.01ポイント増加し、1.52であった。

※ 合計特殊出生率 15歳から49歳までの女性の年齢別の出生率を合計したもので、1人の女性が一生の間に生む子どもの数を推計したもの。

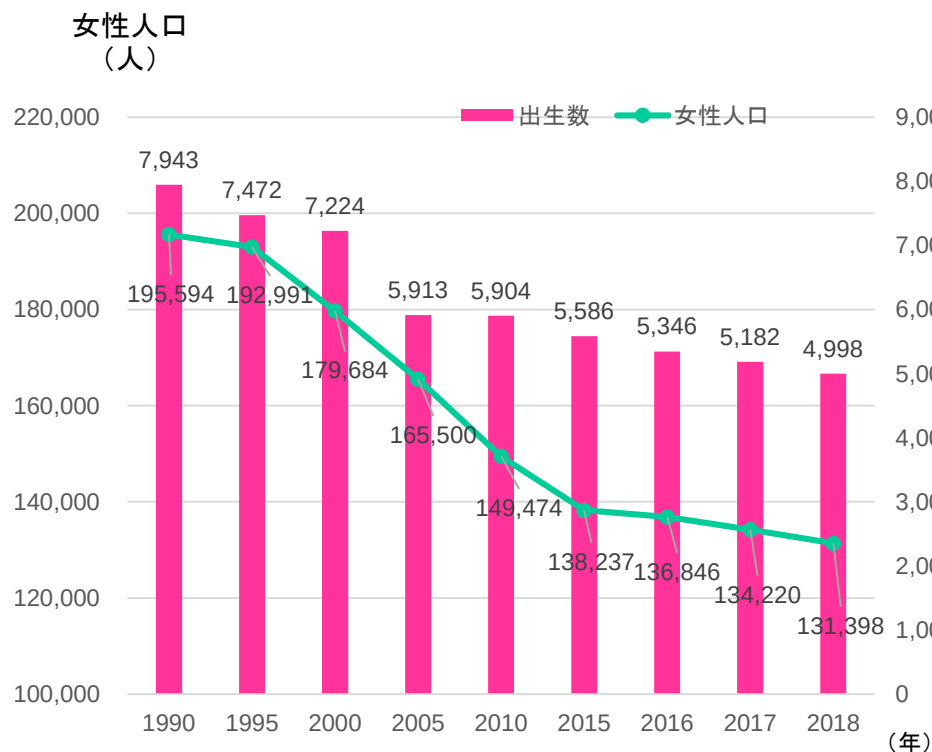


女性人口の変動

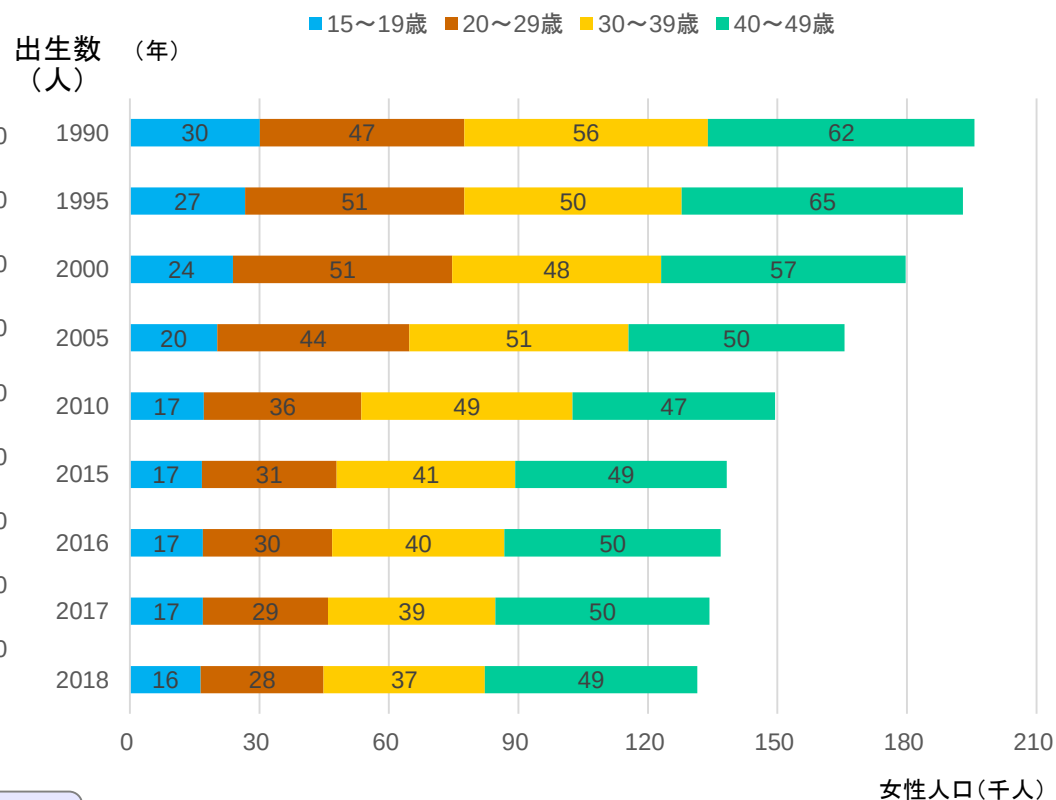
4 少子化の原因(1)

- 本県の女性人口(15歳～49歳)は、1990年と比較して約6万4千人減少している。
- 年代別で見ると、20代は、2000年の5万1千人を境に急速に減少し、2018年では2万8千人と約2万3千人減少し、30代でも減少傾向にあり、同様に比較すると約1万1千人の減少となっている。また、40代でも、2000年と2018年を比較すると約8千人減少しているものの、2010年から微増となっている。

■ 女性人口と出生数の変動(徳島県)
(15～49歳)



■ 女性人口の年代別推移(徳島県)
(15～49歳)



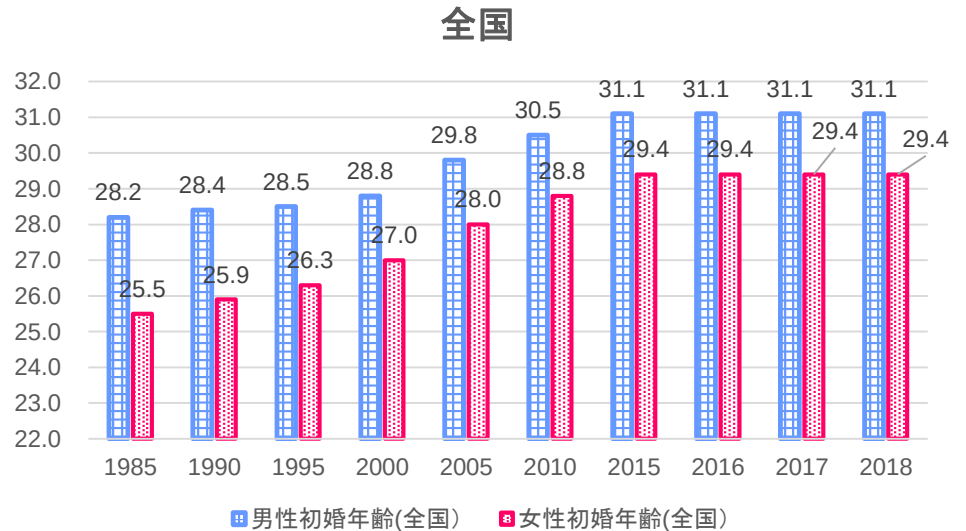
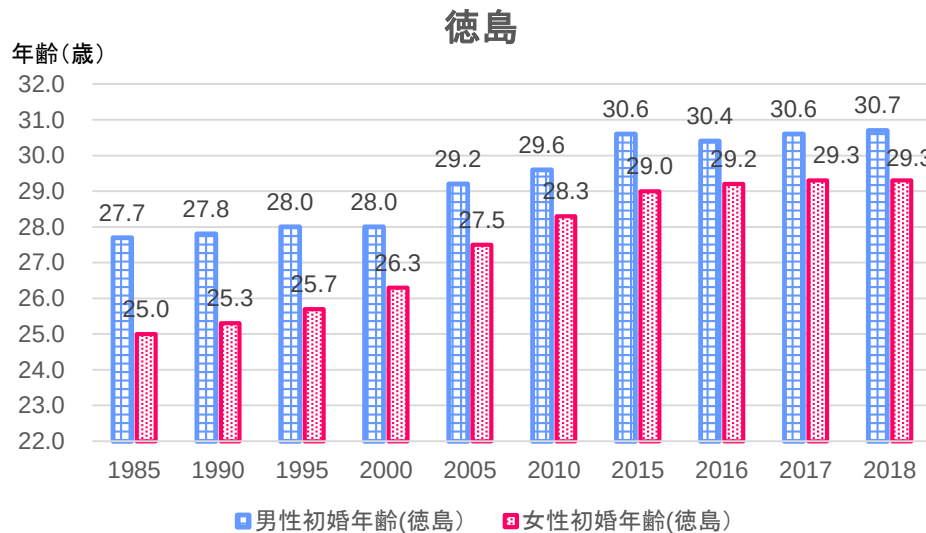
出典：徳島県保健福祉部「徳島県保健・衛生統計年報」

4 少子化の原因(2)

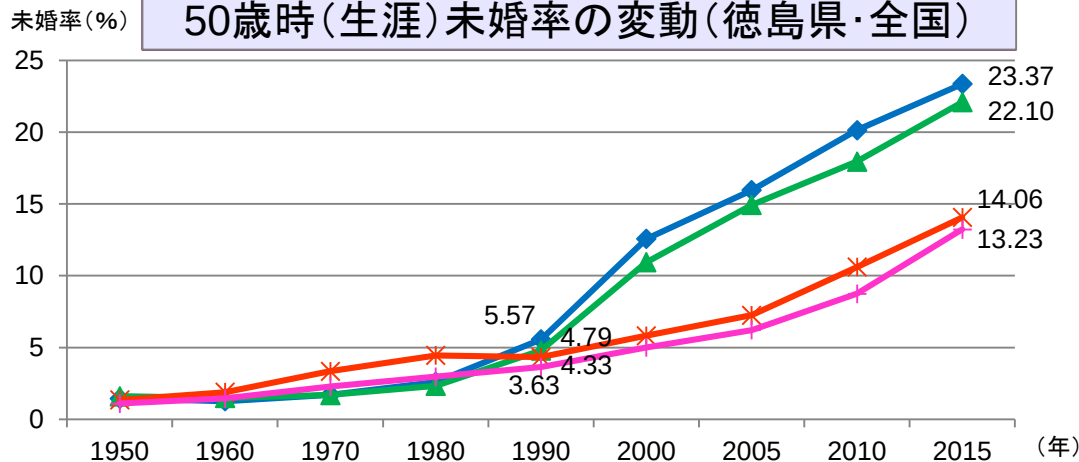
未婚化・晩婚化の進行

- 2018年の本県の平均初婚年齢は、1985年(約30年前)から男性で3.0歳、女性で4.3歳上昇した。全国においても、上昇傾向であるが、2014年以降男女とも同年齢で推移している。
- 50歳時(生涯)未婚率は、1990年を境に、大幅な上昇を示しており、急速に未婚化が進行している。
1990年(徳島 男性 4.79%, 女性 3.63%)(全国 男性 5.57%, 女性 4.33%)
2015年(徳島 男性22.10%, 女性13.23%)(全国 男性23.37%, 女性14.06%)

平均初婚年齢の変動(徳島県・全国)



50歳時(生涯)未婚率の変動(徳島県・全国)



※50歳時(生涯)未婚率
「45～49歳」と「50～54歳」の
未婚率の平均値から「50歳時」
の未婚率(結婚したことがない人
の割合)を算出した統計指標

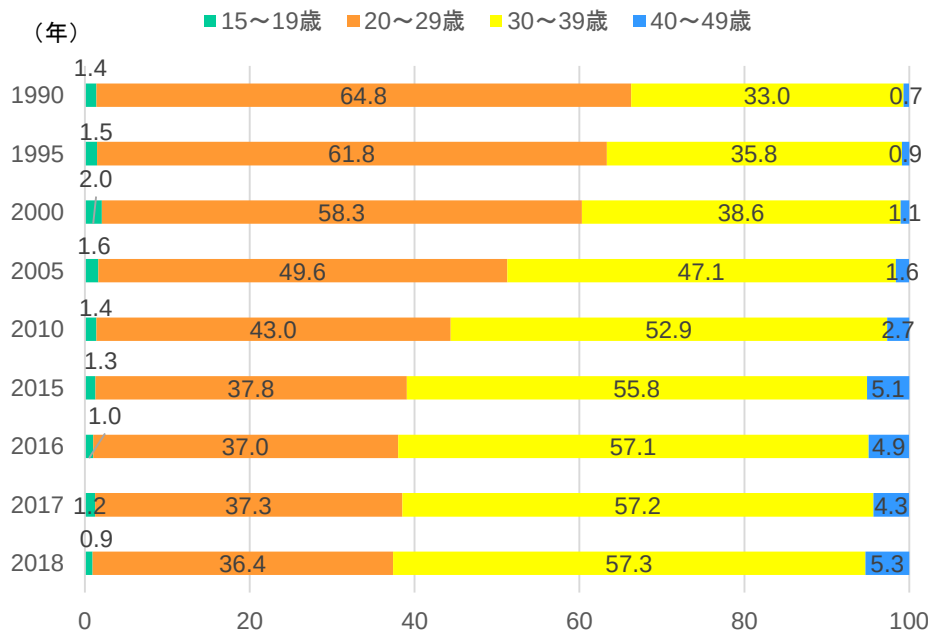
出典:厚生労働省「人口動態統計」
総務省「国勢調査」

4 少子化の原因(3)

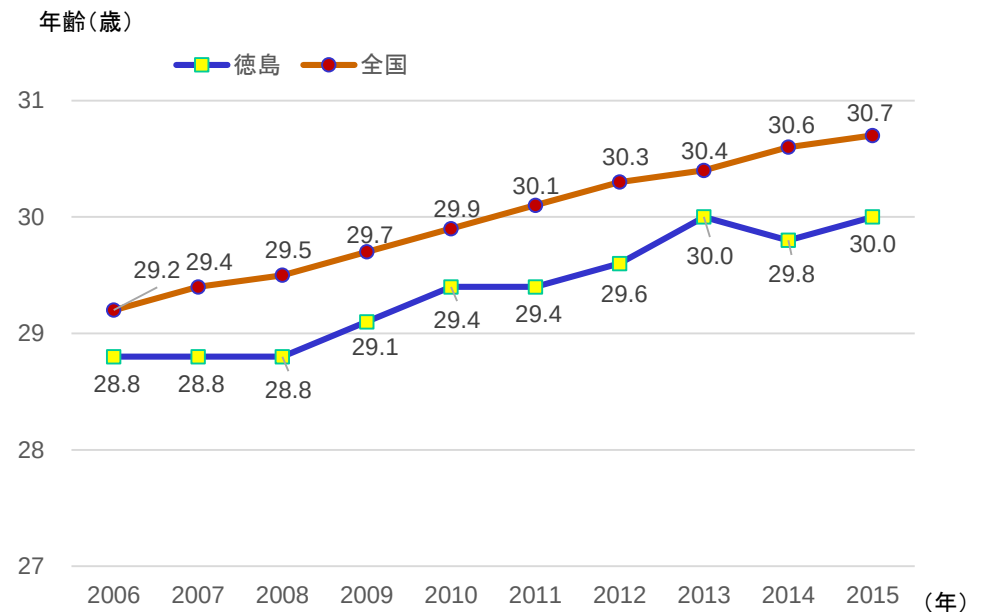
晩産化の進行

- 母親の年代別の出生数の割合は、1990年では、20代で64.8%と、過半数を占めていたが、2018年では、30代で57.3%と過半数を占めるようになり、また、1990年では1%に満たなかった40代での出生数の割合は、2018年では、5.3%となっており、晩産化が進行している。
- 第1子を出産したときの母親の平均年齢は、2006年と2015年で比較すると、全国では、29.2歳、30.7歳と1.5歳高くなっており、徳島県では28.8歳、30.0歳と1.2歳高くなっている。

年代別の出生数の割合(徳島県)



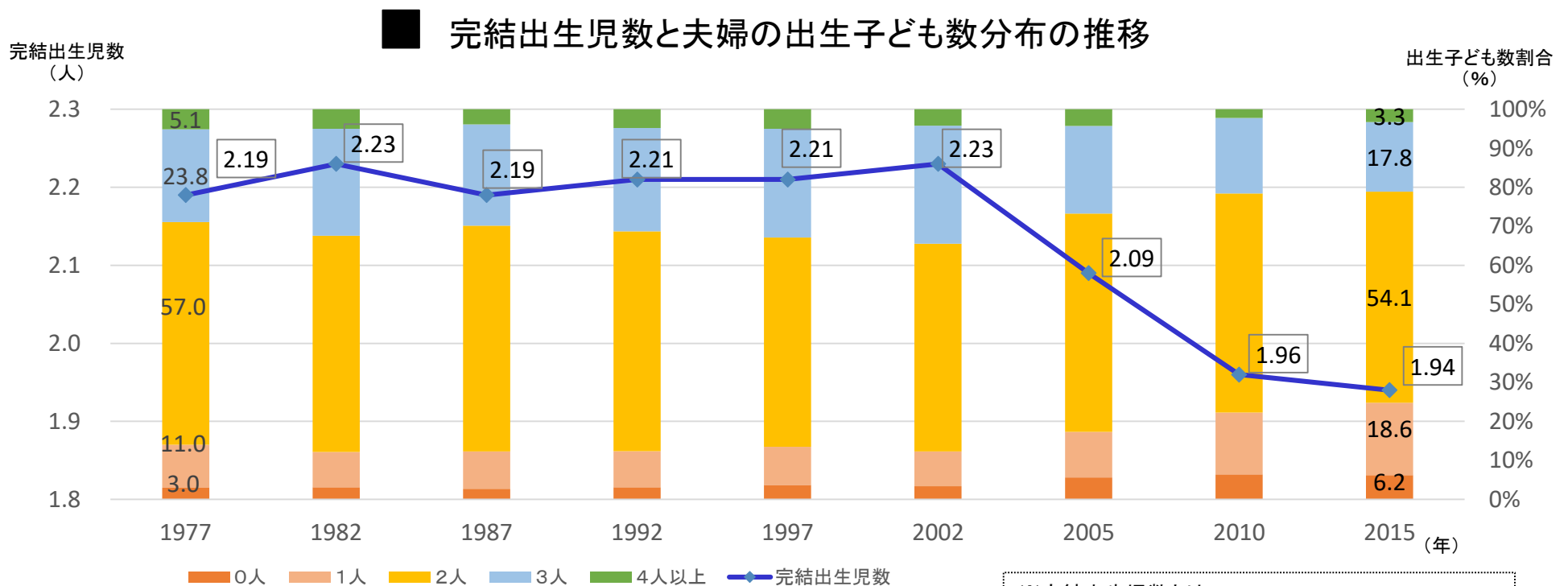
第1子出生時の母親の平均年齢(徳島・全国)



4 少子化の原因(4)

夫婦の出生力の低下

- 夫婦の完結出生児数(最終的な出生子ども数の平均値)は、1977年(第7回調査)以降、2002年までは2.2人前後で安定的に推移していたが、2010年に2人を下回り、低下傾向にある。
- 1977年以降、半数を超える夫婦が2人の子どもを生んでいる。
子どもを3人以上持つ夫婦の割合は低下し、一方で1人の夫婦が増加している。

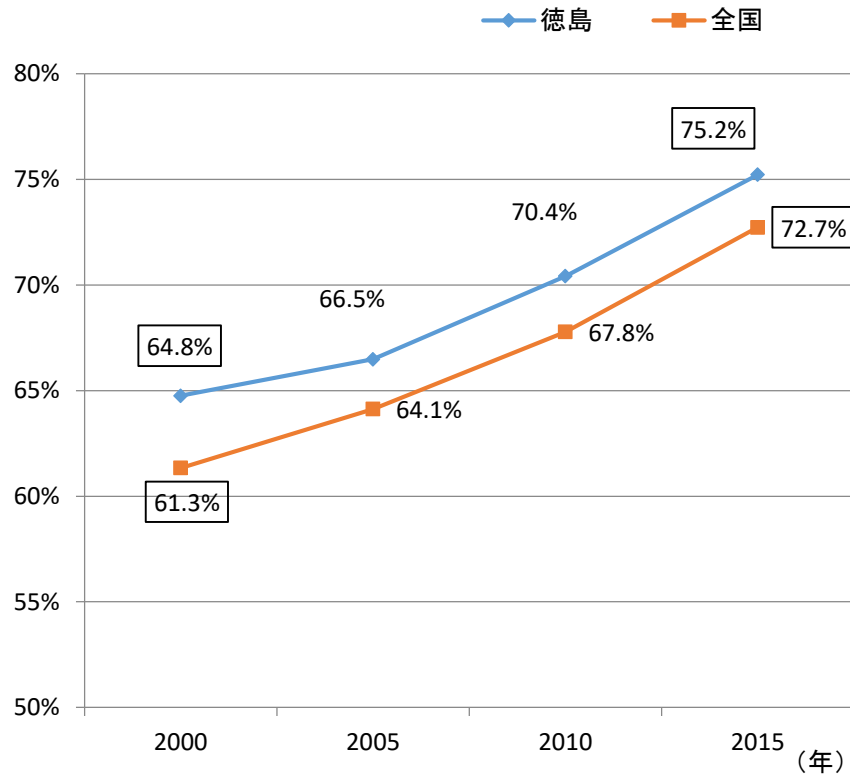


出典：国立社会保障・人口問題研究所「H27第15回出生動向基本調査」

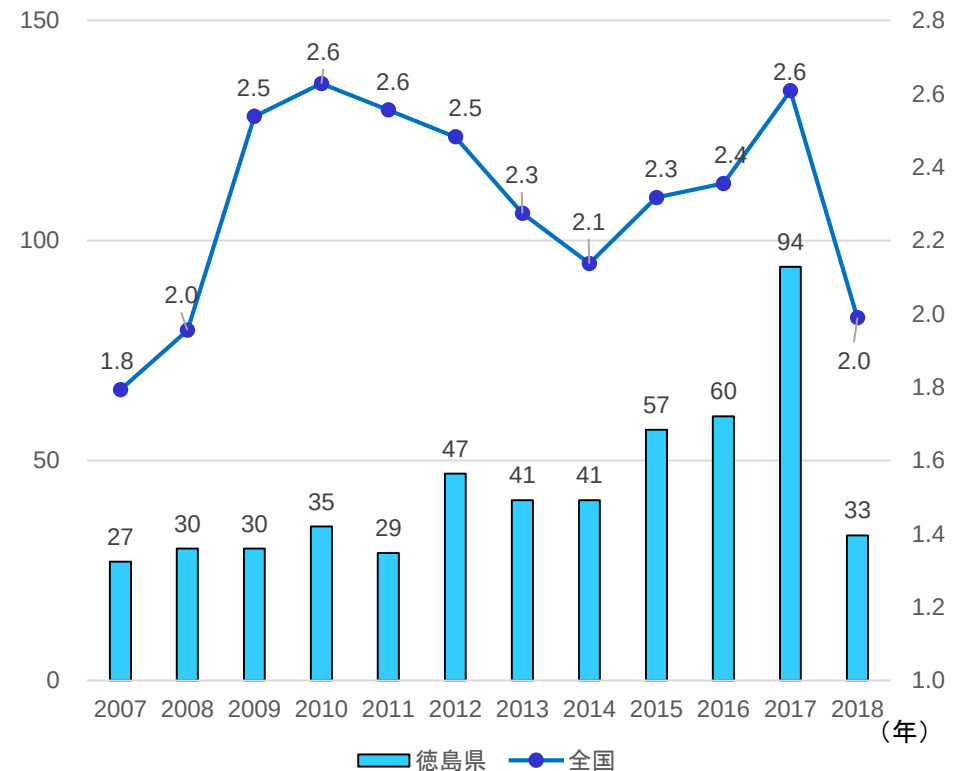
5 その他

- 25歳から44歳の女性の就業している者の割合は、全国、本県とも上昇している。
- 保育所等待機児童数は、2018年(4月1日時点)では、全国で19,895人で、前年同期に比べ約6,200人の減少となった。本県においても、3市で33人となり、前年に比べ61人の減少となった。(R1.4.1は73人に増加)

女性(25～44歳)の就業率の推移(徳島県・全国)



保育所等待機児童数の推移(徳島県・全国)



出典:総務省「国勢調査」 厚生労働省調査資料